



# 武蔵野

学校だより NO. 11  
平成 30 年 2 月号  
昭島市立武蔵野小学校  
校長 岡部 操

## 節分と鬼の話、そして「泣いた赤おに」

副校長 星野 典靖

節分（せつぶん）とは、元々は各季節の始まりの日（立春・立夏・立秋・立冬）の前日をいいましたが、江戸時代以降に立春（毎年 2 月 4 日頃）の前日を指すようになりました。それで今は、節分というと 2 月 3 日頃をさすようになりました。そして、季節の変わり目には邪気（鬼）が生じると考えられており、それを追い払うための行事として「豆まき」が行われるようになりました。

古くから、豆には生命力と魔除けの呪力が備わっていると信じられていて、豆（まめ）を鬼の目（魔目）に投げつけると邪気（鬼）を追い払い、一年の無病息災を願うという意味合いがあります。

さて、日本人の多くは「鬼」というと「黄色と黒の腰巻」や「頭から生えた角」をイメージするようですが、どうしてでしょう。一つの説をご紹介します。

「おに」の語源は、おぬ（隠）が転じたもので、「元来は姿の見えないもの」という意味でした。でもそれでは姿をイメージできません。そこで、鬼の棲む「鬼門」から、鬼の姿を作り上げました。

「鬼門」は北東の方角をいい、昔は北東を「丑寅（うしとら）の方角」といいました。そこで昔の人は、丑（うし）の角を生やし、寅（とら）の皮の腰巻をはいた姿として鬼のイメージを作り上げたのだそうです。

このように作られた鬼のイメージは大変怖いものです。でも、「やさしくて素直な鬼」や「友達思いの鬼」が出てくる話もあります。その代表的な作品が浜田廣介作の「泣いた赤おに」ではないでしょうか。

「泣いた赤おに」には、「人間と仲良くなりたい赤鬼のために、自分を犠牲にする青鬼」「赤鬼を気遣う優しい心のメッセージをおくった青鬼」「手紙を何度も繰り返し読んで涙を流す赤鬼」など自己犠牲や信頼友情などの道徳的価値にあふれる鬼の姿があります。2 月には読書週間もあります。ぜひ、お子さんといっしょに「泣いた赤おに」を読んで、赤鬼や青鬼の心情について考えて話し合ってみてはいかがでしょうか。きっと温かい会話が広がると思います。

\*\*\*\*\*お願い\*\*\*\*\*

### 【転出の方は、早めにご連絡をお願いします】

学級編成を行う上で、児童数を正確に把握しておく必要があります。転出の予定は、早めに担任まで連絡ください。ご協力よろしく願いいたします。

### 【緊急時における電話連絡について】

学校で、発熱や体調不良のため、1 時間程度保健室で休養しても、回復の見込みがなく、教室での学習が難しい時は、お迎えをお願いいたします。（児童一人で下校させることはできません。）

学校からは発信用の PHS から連絡をします。下の番号をご確認いただきご登録ください。また、携帯電話の番号や職場の電話番号などの緊急連絡先に変更がありましたら、必ず担任までご連絡ください。

- PHS 電話 1 070-5014-9668
- PHS 電話 2 070-5014-5870
- PHS 電話 3 070-5014-7730

折り返しのお電話は、代表電話 042-543-8666 へお願いいたします。